

第1号議案 平成25年度事業報告について

I. 法人の概要

1. 名称等

公益社団法人日本造園学会

英文表記：Japanese Institute of Landscape Architecture

設立等：大正14年4月14日社団法人日本造園学会設立

平成24年4月1日公益社団法人へ移行

2. 主たる事務所の所在地

東京都渋谷区神南1丁目20番11号

3. 会員

会員種別	員数		増減(△)数
	本年度末現在 (H26.3.31現在)	前年度末現在 (H25.3.31現在)	
名誉会員	17	18	△1
正会員	2,356	2,419	△63
準会員	12	5	7
賛助会員	63	61	2
購読会員	135	134	1
計	2,583	2,637	△54

4. 会費

正会員 12,000円、正会員（大学院生）9,000円、準会員（学部生）3,000円、
賛助会員1口 18,000円、購読会員1口 12,000円

5. 執行体制

理事の数：20人（非常勤）

監事の数：3人（非常勤）

職員の数：3人（常勤2人、非常勤1人）

6. 公益目的事業

造園に関する調査研究，出版，講習・研修，専門教育推進・評価，表彰を通じて，造園に関する学術
および技術の進歩をはかり社会の発展に貢献する事業

7. 収益事業等

なし

II. 事業の状況

1. 調査研究事業

(1) 一般研究

- ・ 学会内には、生態工学、緑化環境工学、ランドスケープ遺産、ランドスケープ建設技術、景観計画・デザイン、ランドスケープマネージメント等に関する研究グループを組織し、社会的要請に対応するための個別テーマに特化した調査研究を行った。
- ・ これらの成果は、後述する機関誌への掲載（出版事業）や全国大会における研究集会（講習・研修事業）等において公表した。

(2) 特別研究

- ・ 桂川嵐山地区河川整備に関わる景観保全検討ワーキンググループを組織し、当該課題に関する情報収集、現地視察、関係者との意見交換を行った。
- ・ 東日本大震災からの復興に向けた調査研究活動の一環として、福島県石川町にて「原発の被害を受けた土地と向き合う」をテーマに、町民を交えた学生ワークショップを行った。また、ランドスケープ研究（1～4号）には、「復興のランドスケープ」を連載した。

(3) 受託研究

- ・ 本年度は、調査研究の受託はなかった。

2. 出版事業

(1) 機関誌「ランドスケープ研究」

- ・ 機関誌「ランドスケープ研究」77巻1～4号を編集、刊行した。
- ・ 記事の内容は、全国大会関連記事、特集企画に加え、各種の連載記事、学会からの連絡事項等とした。
- ・ 特集企画のテーマは、「ランドスケープが描く幸福論」（77巻1号）、「生物多様性地域戦略のこれから」（77巻2号）、「消費社会における観光と国土へのまなざし」（77巻3号）、「オオタカをめぐる多様ななかかわり」（77巻4号）とした。
- ・ 連載記事として「生きもの技術ノート」「海外の造園動向」、「恩師からのバトン」を掲載した。
- ・ 刊行作業では、造園に係わる研究者、実務者から構成される編集委員会を組織し、造園学術および技術に係わる各号のテーマや執筆者等を選定した。
- ・ 78巻3号までに掲載する特集企画および連載企画内容、執筆者を検討した。

(2) 同研究発表論文集

- ・ 造園に関する会員の優れた研究論文を掲載した研究発表論文集をランドスケープ研究77巻5号として刊行した。研究発表論文集への掲載が決定した論文の第一著者は、全国大会（講習・研修事業）における発表が義務づけられる。
- ・ 論文集の刊行作業では、造園に係わる研究者から構成される論文集委員会を組織し、規定にしたがって投稿された論文を査読して、学術的水準を評価し、論文集への掲載の可否を決定した。

(3) 同オンライン論文集

- ・ 造園に関する会員の優れた研究論文、短報、資料を科学技術振興機構（JST）が運営する「科学技術情報発信・流通総合システム」（J-STAGE）で電子ジャーナルとして公開するオンライン論文集第6巻を刊行した。
- ・ 論文集の刊行作業では、造園に係わる研究者から構成される論文集委員会を組織し、年3回募集し、

規定にしたがって投稿された論文等を査読して、学術的水準を評価し、論文集への掲載の可否を決定した。

(4) 造園作品選集

- ・ 会員による優れた造園設計計画作品を掲載した「造園作品選集 2014」(77 巻増刊)を刊行した。
- ・ 造園に係わる研究者や実務者から構成される造園作品選集委員会および造園作品選集刊行委員会を組織し、応募された 73 作品についての書類規定審査、現地規定審査、掲載作品の選考、作品原稿の確認、編集方針の決定等行なった。

(5) ランドスケープ研究増刊技術報告集

- ・ 会員による優れた造園技術に関する報告を掲載した「ランドスケープ研究増刊技術報告集 8 2014」の刊行準備を行なった。そのために、造園に係わる研究者や実務者から構成される刊行委員会等を組織した。
- ・ ランドスケープ研究 77 巻 4 号および学会ホームページを通じて「技術報告集」に掲載する技術報告編と論説編の募集を行った。また、新たに特集テーマ編を設けて「復興と地域再生の技術」に関わる技術報告と論説の募集も行なった。

(6) Urban and Regional Planning Review (URPR)

- ・ 都市・地域計画に関する会員の優れた研究論文(英文)を、科学技術振興機構(JST)が運営する「科学技術情報発信・流通総合システム」(J-STAGE)で電子ジャーナルとして公開した。
- ・ 刊行作業では、都市・地域計画等に係わる研究者から構成される論文集委員会を、日本都市計画学会および日本計画行政学会と連携して組織し、規定にしたがって投稿された論文を審査し、学術的水準を評価し、論文集への掲載の可否を決定した。

(7) その他

- ・ (一社)日本造園建設業協会の包括的な連携事業の一環として、造園技術の確立と更なる向上を図るため「(仮称)造園施工示方書」の出版を企画した。
- ・ その他、講習・研修事業等に係わる出版物等を刊行した。

3. 講習・研修事業

(1) 全国大会

- ・ 平成 25 年度全国大会として、広く教育者、研究者、実務者、市民、学生等を対象とした見学会、公開シンポジウム、ミニフォーラム、研究発表会、受賞者記念講演、ポスター展示等を開催した。
- ・ 開催日程は、平成 25 年 5 月 24 日(金)～26 日(日)、開催場所は 5 月 24 日(金)が東京証券会館、5 月 25 日(土)～26 日(日)が千葉大学西千葉キャンパスであった。
- ・ 5 月 24 日(金)は、学生公開アイデアコンペ「「日本橋」風景ブランディングー江戸文化の中心地「日本橋」という町をランドスケープの力でバリューアップするー」の公開審査会を開催した。
- ・ 5 月 25 日(土)は、定時社員総会の他に、平成 24 年度日本造園学会賞の発表ならびに表彰式、学生公開アイデアコンペ審査結果発表ならびに表彰式、日本造園学会賞受賞者記念講演会、東日本大震災復興支援ワークショップ(2 テーマ)、公開シンポジウム「つなげる里山・里海、そして次世代の環境」、ポスター展示、大会企画展示(「ランドスケープの今を問うデザインと技術」展)、学生公開アイデアコンペ作品展示会、造園技術報告ポスター展示、日本造園建設業協会造園コンクール作品展示、日本造園学会関東支部学生デザインワークショップ作品展示および交流会を開催した。また、ミニフォーラム(5 テーマ)を開催した。

- ・ 5月26日(日)は、研究発表会(19セッション・70件)、教育職能フォーラム(3テーマ)、ポスター展示、大会企画展示、学生公開アイデアコンペ作品展示、造園技術報告ポスター展示、日本造園建設業協会造園コンクール作品展示、日本造園学会関東支部学生デザインワークショップ作品展示を開催した。
- ・ 3日間にわたる全国大会の参加者は、総数延 645 名を数えた。
- ・ 全国大会の成果は、機関誌等(出版事業)にも掲載され、公表された。
- ・ その他には、平成 26 年度全国大会の企画・運営の準備等を行った。

(2) 支部大会

- ・ 平成 25 年度支部大会を、北海道、東北、関東、中部、関西、九州の各支部において、開催した。広く教育者、研究者、実務者、市民、学生を対象にした見学会、公開シンポジウム、フォーラム、研究発表会、ポスター展示等を実施した。
- ・ 関東支部大会を、平成 25 年 10 月 26 日(土)、27 日(日)に、東京農業大学世田谷キャンパス(東京都世田谷区)他にて開催した。現地見学会・現地セッション、事例・研究発表会(101 件)、学生デザインワークショップ「原発の被害を受けた土地と向き合う」の成果発表会、公開シンポジウム「時代を超えるランドスケープ・緑のエイジングで俯瞰する造園の 30 年ー東京 2020 オリンピックを視野に入れてー」、交流会等を開催した。
- ・ 関西支部大会を、平成 25 年 10 月 26 日(土)～27 日(日)に、大阪府立大学 I-site なんば(大阪府大阪市)にて開催した。シンポジウム「都市におけるランドスケープデザインとしてのみどりの戦略を考える」、交流会、研究・事例発表セッション(口頭発表 22 件、ポスター発表 14 件)、公開研究会「ランドスケープ遺産インベントリーづくり：残したい河川のランドスケープとは」等を開催した。
- ・ 九州支部大会を、平成 25 年 11 月 1 日(金)～2 日(土)に、大分県大分市 ホルトホール大分(大分市)にて開催した。「都市のみどりと健康」を大会テーマとし、研究・事例報告会(口頭発表 21 件、ポスター発表 10 件)、特別講演「世界農業遺産に認められた国東半島宇佐地域のクヌギ林の価値」、基調講演「身近な森林と心身の健康」、パネルディスカッション「身近なみどりと健康」、ランドスケープ遺産成果報告会、見学会、交流会等を開催した。
- ・ 北海道支部大会を、平成 25 年 10 月 5 日(土)に、北海道大学学術交流会館(北海道札幌市)にて開催した。研究・事例報告会(口頭発表 8 件、ポスター発表 1 件)、北海道学生セッション(ポスター発表 16 件)、学生デザインワークショップ、シンポジウム「パークマネジメントのこれから」、交流会を開催した。
- ・ 東北支部大会を、平成 25 年 10 月 26 日(土)～27 日(日)に、岩手県久慈市 道の駅「やませ土風館」にて開催した。「三陸復興国立公園創設による地域活性化」を大会テーマとし、基調講演「三陸復興国立公園と地域活性化」およびパネルディスカッション、ポスターセッション、交流会、エクスカーセッション等を開催した。
- ・ 中部支部大会を、平成 25 年 10 月 26 日(土)～27 日(日)に、名古屋産業大学他で開催した。見学会、交流会、研究発表・ポスター発表(23 件)、公開シンポジウム「ランドスケープ遺産を活かす」等を実施した。

(3) 日中韓国際ランドスケープ専門家会議・国際シンポジウム

- ・ 平成 26 年度に中国で開催予定の中日韓ランドスケープ専門家会議およびシンポジウムの準備作業を中国風景園林学会と調整して行った。

(4) その他

- ・ 環境省、農林水産省及び国土交通省による外来種被害防止行動計画（仮称）の策定、侵略的外来種リスト（仮称）の作成に対して、「外来種被害防止関連施策検討ワーキンググループ」を設置し、意見書を提出した。
- ・ その他、講習や研修に係わる事業を実施した。

4. 専門教育推進・評価事業

（1）JABEE 認定審査

- ・ 造園関連分野の大学等における実務者養成の支援、促進のための JABEE（日本技術者教育認定機構）の認定審査・認定継続審査の受審、審査申請予定校の支援に関しては、認定審査および認定継続審査の対象校が無いなか、審査員の育成等に関する意見交換を行った。

（2）環境・造園系専門職大学院認証評価

- ・ 環境・造園系実務者の養成機能の維持・向上のために、環境・造園系専門職大学院の適格性の認証評価を行うこととしており、平成 25 年度は、平成 24 年度に専門職大学院認証評価申請を受理した「兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科」の審査を実施した。

（3）造園 CPD 制度（継続教育制度）の運営

- ・ 造園 CPD 制度の運営として、会員登録、実施記録登録、実施記録登録証明書の申請、プログラム認定申請等の各種システムの運営を行った。
- ・ 造園 CPD 会員の入退会や会員区分異動の対応、会員証の発行を行い、平成 25 年度の新規会員は 659 人、会員登録者数は 7589 人となった。
- ・ 実施記録登録証明書の発行（723 通）、認定プログラムの情報提供、各種問い合わせの対応を行った。
- ・ 平成 25 年度実施分のプログラムとして 423 件を認定した（平成 26 年 3 月 31 日現在）。
- ・ その他、広報・普及活動、関連団体との情報収集・交換等を実施した。

5. 表彰事業

（1）日本造園学会賞・奨励賞・上原敬二賞・特別賞及び田村剛賞

- ・ 造園に関する学術、技術および芸術の進歩をはかるため、造園に関し特に優秀な業績をあげた会員に、研究論文、技術、設計作品の 3 部門からなる「日本造園学会賞」を授与した。また各部門に「奨励賞」を設けて授与した。加えて、造園の分野において著述、教育あるいはその他広範な社会活動を通じて造園の進歩・発展ならびに啓蒙に多大な貢献をしたと認められるものに「上原敬二賞」を授与した。さらに、自然と文化の保全を図り、調和のある、新しい環境の創造に寄与した優れた造園に関する業績（著作出版業績を含む）に、会員・非会員を問わず、「日本造園学会特別賞」を授与した。
- ・ 平成 25 年度には、自然公園および自然保護分野において、学術的研究論文、著述、設計作品等について優れた業績をあげ、当該分野の進歩、発展ならびに啓蒙に顕著な貢献を優秀な業績をあげた者に、会員・非会員を問わず授与する「田村剛賞」を設置した。
- ・ いずれも識見の高い研究者及び実務者から構成される学会賞選考委員会が、規定にしたがって審査選考を行った。平成 24 年度に審査選考された授賞候補者について、理事会にて審議・決定し、全国大会において表彰した。内訳は、日本造園学会賞は、研究論文部門 5 名、技術部門 1 名、同奨励賞は研究論文部門 5 名、技術部門 1 名、上原敬二賞 4 名、同特別賞は 3 件であった。また、平成 25 年度表彰の各賞の応募者等についての審査選考を実施した。

(2) その他

- ・ 若手研究者の支援と学術研究活動の活性化を図るために、「学生公開アイデアコンペ」、「ベストペーパー賞」、支部における各種表彰等を実施した。
- ・ 特定の課題に対する計画・設計作品，論文・発表等について，識見の高い専門家から構成される審査委員会がこれを審査し，優れたものについて表彰する形式をとった。

6. その他

- ・ 公益法人としての運営の適正化を図るために，事務局機能の強化，各種規程・規則の改定および整備等に努めた。
- ・ 学会の公益事業に関する情報の発信や会員サービスの向上等に資するために，学会ホームページの運用の改善を図った。
- ・ 財務検討のタスクフォースを設けて、交通費規程等の検討、消費税についての情報収集をおこなった。
- ・ 平成 27 年度の学会設立 90 周年に向けた記念事業のあり方について検討した。
- ・ その他

Ⅲ. 役員等に関する事項

1. 役員

役名	氏名	就任年月日	担当職務	手当	職名 (H26.3.31現在)
理事・会長	下村 彰男	H 11. 5. 29	総括	無	東京大学大学院農学生命科学研究科教授
理事・副会長	宮城 俊作	H 13. 5. 26	スクワース(連携) ・支部	無	奈良女子大学生生活環境学部教授
理事・副会長	小林 達明	H 19. 5. 19	学会賞・校閲・ 専門職	無	千葉大学大学院園芸学研究科教授
理事	金子 忠一	H 19. 5. 19	総務・CPD・ 専門職	無	東京農業大学地域環境科学部教授
理事	池邊このみ	H 17. 5. 14	企画・支部	無	千葉大学大学院園芸学研究科教授
理事	鈴木 誠	H 17. 5. 14	学術・スクワース・ JABEE	無	東京農業大学地域環境科学部教授
理事	斎藤 馨	H 13. 5. 26	編集・校閲	無	東京大学大学院新領域創成科学研究科教授
理事	柴田 昌三	H 23. 5. 21	国際	無	京都大学大学院地球環境学堂教授
理事	加藤 友規	H 25. 5. 25	スクワース(奨励) ・作品選集	無	植籾加藤造園株式会社代表取締役社長
理事	大黒 俊哉	H 21. 5. 23	論文集・校閲	無	東京大学大学院農学生命科学研究科教授
理事	金岡 省吾	H 21. 5. 23	CPD・総務	無	富山大学地域連携推進機構教授
理事	藤原 宣夫	H 19. 5. 19	技術報告集・ スクワース(連携)	無	大阪府立大学大学院生命環境科学研究科教授
理事	平田富士男	H 23. 5. 21	JABEE・編集	無	兵庫県立大学大学院環境景観マネジメント研究科教授
理事	前澤 洋一	H 23. 5. 21	作品編集・CPD・ 学会賞	無	(株)プレック研究所専務取締役
理事	横張 真	H 13. 5. 26	国際	無	東京大学大学院工学系研究科教授
理事	温井 亨	H 25. 5. 25	企画・支部・CPD	無	東北公益文科大学公益学部教授
理事	深町功津枝	H 17. 5. 14	学術・論文集	無	京都大学大学院地球環境学堂准教授
理事	舟弓敏明*	H 25. 5. 25	企画	無	国土交通省都市局公園緑地・景観課課長
理事	鳥居敏男*	H 25. 5. 25	編集・国際	無	環境省自然環境局国立公園課課長
理事	五十嵐政郎	H 25. 5. 25	技術報告集	無	東京都建設局公園緑地部部長
監事	小野 良平	H 19. 5. 19	監査	無	東京大学大学院農学生命科学研究科准教授
監事	鈴木 義人	H 21. 5. 23	監査	無	(株)柳島寿々喜園代表取締役社長
監事	柳井 重人	H 21. 5. 23	監査	無	千葉大学大学院園芸学研究科准教授

※理事の就任年月日は新任の際の就任年月日である。

※表中*印は「公益法人の設置許可及び指導監督基準」および「同運用指針」に該当する国家公務員出身者である。

2. 支部長

支 部	役名	氏 名	就 任 年月日	職 名 (H26. 3. 31 現在)
関 東	支部長	小水曾 裕	H.24. 4. 14	(株)R リンケージ執行役員
関 西	支部長	若生 謙二	H.24. 4. 1	大阪芸術大学芸術学部教授
九 州	支部長	大原 亨	H.25. 4. 1	(公財)福岡市緑のまちづくり協会公園管理事務所長
北海道	支部長	近藤 哲也	H.24. 10. 5	北海道大学大学院農学研究科教授
東 北	支部長	温井 亨	H.23. 10. 15	東北公益文化大学公益学部教授
中 部	支部長	佐々木 邦博	H.25. 4. 1	信州大学農学部教授

3. 幹事

役 名	氏 名	就 任 年月日	担当職務	職 名 (H26. 3. 31 現在)
幹 事	栗野 隆*	H.23. 6. 18	総 務	東京農業大学地域環境科学部助教
幹 事	大久保 悟*	H.19. 6. 30	総 務	東京大学大学院農学生命科学研究科助教
幹 事	八色 宏昌*	H.25. 7. 6	タスクフォース(連携)	株式会社グラック環境設計室長
幹 事	伊藤 弘*	H.15. 7. 12	タスクフォース(財務)	筑波大学大学院人間総合科学研究科准教授
幹 事	押田 佳子*	H.25. 7. 6	企 画	日本大学理工学部助教
幹 事	武田 重登*	H.25. 7. 6	編 集	大阪府立大学大学院 生命環境科学研究科助教
幹 事	山田 晋*	H.25. 7. 6	学 術	東京大学大学院農学生命科学研究科助教
幹 事	入江 章昭	H.12. 7. 29	学 術	東京農業大学短期大学部准教授
幹 事	菊池左智子*	H.25. 7. 6	国 際	茨城大学地球変動適応科学研究センター研究員
幹 事	國井 洋一*	H.23. 6. 18	論文集	東京農業大学地域環境科学部准教授
幹 事	横田 樹広	H.25. 7. 6	論文集(オンライン)	清水建設株式会社技術研究所主任研究員
幹 事	板垣 範彦*	H.24. 12. 8	作品選集	いきものランドスケープ代表
幹 事	下嶋 聖*	H.25. 7. 6	技術報告集	東京農業大学短期大学部助教
幹 事	大石 善登*	H.25. 7. 6	学会賞	信州大学農学部助教
幹 事	大藪 崇司*	H.25. 7. 6	JABEE・専門職	兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科講師
幹 事	浅井 俊光*	H.25. 7. 6	CPD	東京農業大学地域環境科学部助教

※表中*印は総務委員会委員兼務

4. 職員

職 務	氏 名	就 任 年月日	担当 職務	備 考
事務職員	芹田 留美	H. 7. 4. 1	事 務	常 勤
事務職員	久住 悦子	H.21. 10. 1	事 務	常 勤
事務職員	神田 紀喜	H.24. 4. 1	事 務	非常勤

